平成２８年度
地域経済産業活性化対策費補助金
（被災12市町村における地域のつながり支援事業）

取組事例集

はじめに

本事業は、福島相双復興官民合同チームの個別訪問活動を経て集められた被災地域の声や要望を基に、経済産業省で平成２８年度から策定された新しい事業です。東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い避難指示等の対象となった福島県田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村及び飯舘村における被災者の人々とのつながり創出を通じ、地域の活性化、さらには産業振興やまちづくりにも資するような取組を支援することを目的とし、平成２８年度「地域経済産業活性化対策費補助金（被災１２市町村における地域のつながり支援事業）」を実施しています。

今回、取組の事例集をまとめるにあたり、これらの取組が広く社会に伝わって地域の再生に繋がる一助となり、さらにこれらの取組を参考に今後の被災地域のつながり創出やコミュニティ再生に取り組まれる皆様の活動の一役を担えることができれば幸いに存じます。

最後に、本事例集の作成にあたり、取材や資料の提供等にご協力をいただきました各取組をされている団体の皆様はじめ関係者の皆様方に、心から感謝申し上げます。

目　次

事例

被災１２市町村における地域のつながり支援事業 事例紹介

01　キッズ＆絆で元気アップ作戦 …… 2
02　県営飯坂団地入居１周年記念交流会 …… 3
03　懐かしの味のレシピの再現や地域の情報提供を通じて故郷のつながりを復活させる取組 …… 4
04　醸造用葡萄栽培に係るセミナー開催 …… 5
05　木戸古民家再生プロジェクト …… 6
06　長寿社会での生きがいづくり …… 7
07　南相馬ハロウィンパーティーの復活と継続の取組 …… 8
08　葛尾村の自然と若者文化の融合による若者交流層形成及び情報発信に関する取組 …… 9
09　合唱団「ヴォイスおおくま」の活動再開と演奏会開催への取組 …… 10
10　双葉町の伝統や郷土料理でつながる会 …… 11
11　松川仮設笑顔あふれるつながり同好会 …… 12
12　納冬まつりの開催により地域活性化を促進する取組 …… 13
13　かしま産和梨活用事業 …… 14
14　地域を担うまちづくり人材の育成を促進する取組 …… 15

※ 掲載している取組については、費用の一部を自己負担している場合があります。

01

田村市都路町

取組団体

七区若連会

代表者　吉田 幸弘さん

取組名称

キッズ＆絆で元気アップ作戦

取組の概要

田村市都路町中心部の都路第７区にて、住民同士の更なる絆を深めるため、震災により減少した地域の催しを集約したお祭りを開催。

震災で苦労を掛け続けてきたお嫁さんや子どもたちに、普段口にできない「ありがとう」という思いを伝えるため、町の男たちだけで準備、運営をしました。

取組の様子

普段口にできない思いを「おもてなし」で伝えようと男たち約 50 人が取り組みました。参加した人たちに楽しんでもらえるよう、カラオケ大会､食のトライアスロン､金魚すくいといった催しや豊富な出店を町の男たちが切り盛りしました。

この日、最大の盛り上がりをみせたのは地元田村市の食材を用いた食のトライアスロンです。夢中になって食材に頬張りつく子どもたちを応援する笑い声が会場に響いていました。

実施者の声

「この取組は､町の男たちが震災後､地域に戻ってきてくれた若いお嫁さんたち、子どもたち、町の人たちに感謝の気持ちを伝えるお祭り。

参加した人たちが楽しんでくれて、本当に嬉しい！これからこの町を守っていくためにも地域の絆やつながりを大切にしていかないとね」

「町の男たちはみんな口下手だから、ありがとうってなかなか言えない、震災から５年半も経ったけど、改めてみんなにありがとうを伝えようと、皆に声を掛け実現できた取組。これらを実現させてくれた関係者の方々や官民合同チームに感謝をしたい」

取組団体

県営住宅飯坂団地自治会

代表者　山田 隆信さん

取組名称

県営飯坂団地入居１周年記念交流会

取組の概要

避難先である県営飯坂団地での暮らしを笑顔溢れるものにするため、支援活動を続けてきた福島大学の学生や地域 NPO などとともに、浪江町の方々が、高齢化の進む団地内の住民と地域の住民が楽しめるよう、交流の場を作り上げました。

取組の様子

団地内住民や福島大学の学生が一緒に「花は咲く」を合唱。また、笑いは心の健康に繋がると考え住民による落語も披露しました。これからも笑顔で生活ができるようにと催されたこの取組には、飯坂地域で暮らす人たちや飯坂団地を支え続けてきた地域のＮＰＯ、地域行政の方々も多数参加され、被災された住民の方々と見守る方々との絆が深められました。

今では飯坂団地の中を地域の子どもたちが走り回っており、この取組を通じて新たな絆も生まれています。

実施者の声

「飯坂団地には３町村（浪江町、富岡町、飯館村）から避難している人たちが暮らしています。この団地に暮らす人たちの平均年齢は 70 歳を超えます。58 世帯のうち半数が一人暮らし。団地は高齢者の拠り所となっています。

見知らぬ場所で新たなコミュニティを築くことは大きな課題です。そして新しい場所での暮らしを活き活きと描いていくためには、団地内だけなく地域の人たちとのつながりも重要になります。

この取組によって、団地内の方々と飯坂地域の方々のつながりが深まってほしいと思っています。これまで支えてきてくれた福島大学の学生さん達や地元ＮＰＯ、地域行政、関係者の方々に感謝の気持ちを伝え、これからも団地へのご支援をお願いしたいと思っています」

取組団体

ぐるぐるユニット

代表者　吉田 一貴さん

取組名称

懐かしの味のレシピの再現や地域の情報提供を通じて故郷のつながりを復活させる取組

取組の概要

双葉郡に生まれ育った若者たちが、地元料理を再現したレシピや避難先で営業を再開した双葉郡の店舗・農園の地図などを作成し、それら店舗へのインタビューを行いました。こうした取組みの成果を、震災により離ればなれとなった故郷の人たちの心を繋ぐため一冊にまとめ、冊子「ツナガル」としてお祭などで配布しました。

取組の様子

双葉町民の懐かしの味である「よっちゃんスルメ」を双葉郡の若者で再現し、これを避難先であるいわき市の双葉町仮設住宅でお披露目しました。その様子やレシピに加え、避難先で営業を再開した店舗・農園のマップ、再開者へのインタビュー等をまとめた冊子「ツナガル」を制作しました。

この「ツナガル」を離ればなれとなった町の人たちに届けようと、双葉８町村のお祭り「ふたばワールド２０１６」などで配布しました。

実施者の声

「震災から６年目、避難される方々の生活は十人十色となりました。避難先で生活を再建する人、町へ戻る人、状況はそれぞれ違います。今回の取組を通じて避難されている方々がふるさとの思い出をたくさん語ってくださいました。私たちのふるさとはまだまだ大変な状況です。遠く離れた人たちが「ふるさと」に気持ちを持ち続けることができるようにお手伝いできたらと思っています。町や村のためにこれからも自分たちができることを続けていきたいです」

参加者の声

「懐かしい人に会いたい気持ちでふたばワールド２０１６に参加しました。震災当時、高校生だったぐるぐるユニットの子たちが、「ツナガル」の制作を通して町民同士のつながりを保とうとする姿に希望を感じました。懐かしい顔ぶれに震災前の思い出があふれてきます。

このようなお祭りや「ツナガル」の冊子をみると、連絡先など知りようがない中、誰がどこで何をしていて、元気でいるのか、こうしたことが分かることはとても必要だと感じます」

取組団体

川内村商工会

代表者　井出 茂さん

取組名称

醸造用葡萄栽培に係るセミナー開催

取組の概要

震災後、持続可能な村づくりのための地域活動として、醸造用の葡萄の栽培が川内村で始まりました。これらの葡萄栽培を地域に根差した活動にするため、村民参加型の醸造用葡萄栽培セミナーや勉強会を行いました。

取組の様子

震災支援によって生まれた新しいつながりにより東京からソムリエを招いて開催された取組には､若者を含めた多くの村民が参加し、醸造用葡萄文化、醸造用葡萄の栽培方法、ワインの醸造方法、ワイナリーの経営等について熱心に学ぶ姿が見られました。村の持続的な活動になるよう知見やノウハウを蓄積しようとする主催者と参加者の思いが伝わってくる取組でした。

実施者の声

「里山に囲まれた自然豊かな川内村では過疎化の問題を抱えています。村にとって必要なことは過疎化していく村を持続可能なものへと変えていく試みだと考えています。そうした取組の一つとなるのが、阿武隈高原を眼下に収める耕作放棄地を活用した醸造用葡萄の栽培です。

里山の原風景に惹かれる人たちが選びたくなる村、若い人が入ってきたいと思えるような村に変えていく姿勢を持つことで、新たな川内村の在り方を確立していきたい。

この取組が村の価値を、村が取組の価値を高め合える関係になることで、村の既存の農業にも良い影響を及ぼせればいいなと思っています」

05
楢葉町

取組団体

木戸古民家再生プロジェクトチーム

代表者　緑川 英樹さん

取組名称

木戸古民家再生プロジェクト

取組の概要

震災後、長らく空き家となっていた楢葉町木戸地区の築７０年の古民家を再生するため、復興活動で知り合った仲間たちと地域の方々が協力して掃除やDIY（※）などを行いました。

再生された古民家は、地域のつながりの回復とこれからの帰還促進、将来の賑わい創出のために活用される予定です。

（※専門業者ではない人が自身で何かを作ったり、修繕したりすること）

取組の様子

震災後、楢葉町木戸地区において、長らく空き家となっていた古民家。復興活動から生まれたつながりにより家主の方から借り受けました。この古民家を活用して、地域の方々や震災後の復興活動でつながった仲間達が道具を持ち寄り、柱や床の掃除、壊れていた縁側の補修、囲炉裏の修繕の研修会などを行うことで、地域との接点が増え、新たな絆や深いつながりが生まれています。

楢葉町では、このような古民家再生プロジェクトを通じて、地域の交流拠点を構築していく活動が行われています。

実施者の声

「震災からの５年半、復興活動で訪れることがあってもなかなか足を踏み込めずにいました。この地域を活性化したい、帰還する人・新しく来る人が交流できる場を作りたい、そういう思いで続けていた復興活動が縁で楢葉町の家主とお会いし古民家を借りることができました。

今は借りた古民家を使える状態にしているところです。この作り上げていくプロセスを楢葉町の方や町外の方と一緒に進めることでつながりを作っていけると思っています。

避難解除から約１年が経過した町は人口が震災前の１割程度。これからこの拠点をきっかけに多くの人の交流の場を作っていきたいと思います」

参加者の声

「私もこの楢葉町で何か取組をしたいと思っていた一人です。自らがプレイヤーになりたくてもきっかけがありませんでした。仲間たちと一緒に作り上げるプロセスは楽しいです。楽しい気持ちをもって楢葉町に入り、町の人とも関われる。支えるではなく、町をつくりあげていく、そんな気持ちで参加しています」

取組団体

いきいきくらぶ小高

代表者　安部 あき子さん

取組名称

長寿社会での生きがいづくり

取組の概要

避難指示解除後、高齢化が進んだ南相馬市小高区。そこで暮らす高齢者たちが活き活きと暮らせるよう、帰還をためらって今も避難している住民への参加も呼びかけながら、ふるさと小高で地元食材を用いた郷土料理を再現する料理教室が開催されました。

皆が集まって助け合うことは、明るく楽しいふるさと生活につながります。ふるさとでの取組は帰還のきっかけにもなります。これからの生きがいをつくり、心と身体の健康を保つ取組です。

取組の様子

南相馬市小高区の集会所で、おはぎ作りの準備に取り掛かっています。あんこの小豆も、えごまも、みんな地元で作ったもの。おばあちゃんたちにとって、おはぎを作ることはお手の物です。手慣れた料理ゆえか手が動くだけでなく、自然と会話も弾みます。作りながら昔話に花が咲き、絆が深まっていきます。

楽しみながら参加できる料理教室により、震災によって閉じこもりがちだったおばあちゃんたちも集会所に集まるようになりました。

実施者の声

「月２回、こうやって料理教室を開いています。地元で採れた野菜を使うことや郷土料理にこだわるのは話に花を咲かせるため。楽しく話ができることで参加者も増えます。だから、この取組は食材や思い出の味が重要。こうやって、みんなで一緒に作ることで手足を動かし、一緒に昔話をすることで地域の高齢者が外に出たいと思える仕組みを作っています。これからもみんなが元気にいられるよう取組を続けていかないとね」

参加者の声

「昔はみんなでおはぎを作って食べたのよ。懐かしい」

「ふるさとでふるさとの料理を作ることができ、友達とお話しできるのも楽しい」

取組団体

南相馬ハロウィンパーティー実行委員会

代表者　チャールズ佳代さん

取組名称

南相馬ハロウィンパーティーの復活と継続の取組

取組の概要

南相馬市原町区にて14年間継続していた「ハロウィンパーティー」は、東日本大震災により、6年間途絶えていました。今回の取組では、この途絶えていた地域と子どもたち、子ども同士、親子の絆を復活させるため、地区のメイン通りにおいて子どもたちが思い思いの仮装をしてお菓子をおねだりするパレードが実施されました。

取組の様子

東日本大震災により約６年間途絶えていた、町の小さな子どもたちが主役のハロウィンパーティーの復活に、多くの仮装した小さな子どもたちとその親御さん達が集まりました。この催しを待ち望んでいた人たちが懐かしさと共に手伝いに訪れました。

町のメイン通りを思い思いの仮装で着飾った子どもたちが練り歩きます。「Trick or Treat！（お菓子をくれなきゃ、いたずらするぞ）」と子どもたちの元気な声が町に響き、大人たちがお菓子を配ります。その様子を笑顔で写真に撮る町の人たち。子どもを中心とした地域のつながりがここに復活しました。

実施者の声

「子どもたちにはハロウィンを通じてふるさとでの楽しい経験や思い出をたくさん作ってほしい。

準備は大変だけどお母さん、お父さん、地区のみんなが手伝ってくれます。震災で大変だったのは大人だけじゃなく子どもたちも一緒。これからも南相馬市を盛り上げていきたいと思います」

参加者の声

「震災後、母子で避難していたのですが戻ってきました。ここのハロウィンパーティーはとても楽しいんです。こうやってまた地域の子どもたちにふれあえるのも６年ぶりですね。懐かしいです。

自分の子どもにも地元の子どもたちと仲良くなってほしくて参加しました。楽しんでいる姿を見て安心しています。また来年もぜひやってほしいです」

取組団体

一般社団法人葛力創造舎

代表者　下枝 浩徳さん

取組名称

葛尾村の自然と若者文化の融合による若者交流層形成及び情報発信に関する取組

取組の概要

現在、葛尾村の人口は７０人程度であるが、高齢者の割合が高く、若者離れが進行している状況。この課題に対応するため、主催者は、葛尾村の自然と若者文化を融合させて、地域の人口増に向けた呼び水にしたいと考え、葛尾村のお勧めスポットで若者のダンスの動画を撮影し、そのダンス動画と葛尾村の情報を併せて発信する上映会を企画しました。

若者たちが、この地域の良さや、地域の人とふれあいながら、新しいことにチャレンジできる場所だと認識できるよう、若者発想で提案された若者の帰還促進に寄与する取組です。

取組の様子

高齢者ばかりとなった村の地域づくりとして何かできないかと、主催者は議論を重ねてきました。

たまたま、西会津で行われていた雪深い冬のストリートダンスコンテストで500人を超える来場者があったことにヒントを得て、若者を取り込むために紅葉に包まれた葛尾村を舞台にしたダンス動画の制作と上映会を企画しました。

取組を通して、若者と地域の交流が進み、若者の交流人口を増やしていくきっかけとなっています。また、この新しい取組には多くの村内外の方々が協力しており、葛尾村に新しい地域のつながりが生まれています。

実施者の声

「今年７月に避難解除になったばかりの葛尾村の人口は70人ほどです。そのほとんどが高齢者で、それは福島県一小さな村とも言えます。

葛尾村の良いところは里山の自然です。でもこれは葛尾村だけの特徴ではなくて、日本中にそうした場所って沢山あります。そしてそこで暮らす人にとっては当たり前のもので、素晴らしさを伝えるって実は難しいんです。なので、歴史や文化を大切にしながら、村の人たちと一緒に新しい取組にチャレンジしていくことで葛尾村の良さを表現したいと思います。

自分のふるさとで、みんなと一緒に新しい取組にチャレンジしながら、自分なりにふるさとへ貢献していきたいと思っています」

取組団体

ヴォイスおおくま

代表者　渡邉 貴紀さん

取組名称

合唱団「ヴォイスおおくま」の活動再開と演奏会開催への取組

取組の概要

東日本大震災に伴い、大熊町からいわき市に避難した町民の方で結成した合唱団。歌を通じて避難先のいわき市で町民同士の絆を維持しています。毎月練習会を行い、いわき市の方々へ恩返しをするためにも、定期的なコンサート開催を目標にしています。これらの活動により避難されている方々等の新しいつながりを形成しながら、合唱を通じて勇気・希望を届ける取組です。

取組の様子

毎月１回開かれるヴォイスおおくまの練習会。歌を歌うことが大好きな町の人たちが集まります。歌を通じて震災により離ればなれになった大熊町の町民が集まり絆を深めています。歌に合わせてピアノの伴奏をするのは、大熊町出身の若手ピアニスト渡邊貴紀さん。震災当時大学生だった彼はこのまちのコミュニティを支えています。これからはこのような練習会を行いながら、まずはいわき市でのコンサート開催を目標に取組を続けています。

実施者の声

「歌を歌うことが純粋に好きな人たちの集まりです。自然と人が集まり、今は 10 人ほどで活動していますが今後はもっと増えそうです。同じ町の人同士で会話も弾み、いつも楽しい練習会をしています。今は取組の目標として、避難先のいわき市でコンサートを開催し、いわき市の方々への恩返しをしたいと思っていますのでコンサートを成功させないといけないですね。そして、これからもお世話になった皆さん、大熊町のために、何かできたらと思っています」

取組団体

ふれあい朝市促進クラブ

代表者　武田 譲二さん

取組名称

双葉町の伝統や郷土料理でつながる会

取組の概要

避難先である埼玉県加須市の朝市が行われた後に、その場所を活用して、音楽鑑賞などの文化活動や、双葉町民が講師となった双葉町の歴史・伝統を語る会、郷土料理を紹介する料理教室など定期的な集いの場を設ける取組が行われています。

取組の様子

町民が協力し合いながら催しを企画・運営することにより、定期的に集まるきっかけができています。さらに、取組の内容を議論することや、催しのチラシを作成すること、自ら進んで集まりに参加されない方や外で見かけなくなった町民へチラシを配布することで、改めて関係が構築され、活動が活発になってきました。

催しの内容としては、双葉町の自然や歴史・伝統を語る会や、東日本大震災の体験講話。今後はさらに内容を充実させる予定です。

実施者の声

「避難生活が長くなり、いつも集まりに参加していた町民の参加が少なくなってきたり、外でもあまり見かけなくなってきた方が増えてきたりしていました。

しかし、今回、このような取組を行うことで、そうした方々が再び集まりに参加してくれるようになりとても嬉しいです。今はこの催しを楽しみにしている方がたくさんいるので、これからも継続させ、発展させていきたいです」

「この取組の準備を行うにあたり、官民合同チームの方から丁寧にアドバイスをいただき本当に感謝しています。そしてこれからは、感謝するだけではなく、今までお世話になった多くの関係者に恩返しできるよう地域の役に立つ取組を行っていきたいと思っています」

取組団体

松川第一仮設同好会

代表者　赤石澤 榮さん

取組名称

松川仮設笑顔あふれるつながり同好会

取組の概要

東日本大震災に伴い、全村避難となった飯舘村民の多くが生活する松川工業団地第一・第二仮設住宅。年々少なくなる仮設住宅内での集いを復活させるため、お笑い・カラオケ同好会を作りました。同好会ではお笑いや歌の練習を行い、定期的にお披露目することで仮設住宅内に活気を取り戻し、来年予定されている飯舘村避難指示解除後の帰村に向け、住民同士のつながりを強めています。

取組の様子

お披露目会の当日、松川工業団地第一・第二仮設住宅の住民が協力し、早朝から会場設営を行いました。ただお披露目会に集まるだけでなく、準備から片付けまで住民が協力して行うことでつながりを強めるきっかけとなりました。

この同好会を作り、定期的に集い、お笑いや歌の練習を行うことで仮設住宅内に共通の話題ができ、笑顔や活気を取り戻しつつあります。

今後は、この同好会で飯舘村への帰村準備や帰村後の復旧に向けた話し合いもしたいと考えています。

実施者の声

「同好会のお披露目会は、松川工業団地第一・第二仮設住宅に住んでいる飯舘村民が元気になり、活気を取り戻すことで、避難指示解除後の帰村に向けて頑張れるようにという思いを込めて開催しました。この取組をきっかけに村民が前向きな気持ちになることを願っています」

参加者の声

「今回のお披露目会のおかげでこの仮設住宅から引っ越してしまった人たちとも顔を合わせることができました。久しぶりに会うことができ、元気が出ました。これからもこのような取組を続けてほしいです」

取組団体

「納冬まつり」実行委員会

代表者　神野 三和子さん

取組名称

納冬まつりの開催により地域活性化を促進する取組

取組の概要

来年３月末に避難指示が解除される予定の川俣町山木屋地区において、復興の象徴となった納豆を活用したイベント「納冬まつり」が、震災後初めて開催されました。

開催に先立ち、イベントでの納豆料理お披露目のため、町民が集まって準備しました。当日はこれら納豆料理や郷土料理のお披露目だけでなく、山木屋の伝統芸能体験なども行われました。

取組の様子

2017年３月末、避難指示解除を迎える川俣町山木屋地区。今回行われた「納冬まつり」には現在も避難生活を送る住民120名以上が参加しました。

イベントでは、山木屋地区の工場で製造が再開された納豆を用いた春巻き作りの他、郷土料理の「いかにんじん」「ざくざく煮」作り、山木屋の伝統芸能である山木屋太鼓のお披露目などが行われ、参加者を楽しませていました。

また、取組の目的でもある地域活性化に役立てるため、地域活性化で成功している徳島県の阿波踊り団体や山形県の花笠踊り団体が招かれ、これらの踊りを体験するなどの交流が行われました。

主催者の声

「イベント準備段階から震災によってバラバラになった住民がここ山木屋に集まり協力してくれたおかげで、笑顔あふれる「納冬まつり」を開催できました。また、当日は官民合同チームからも多くのサポートをいただき盛会のうちに終えることができました。このイベントをきっかけに今後、避難している住民が戻りたくなるような地域を作っていけたらと思っています」

参加者の声

「イベントに参加したことで、震災以降、会えなくなっていた人とも再会することができて嬉しかったですね。ますます避難指示解除が待ち遠しくなりました」

取組団体

一般社団法人南相馬市かしま観光協会

代表者　澤田 一夫さん

取組名称

かしま産和梨活用事業

取組の概要

地元の特産品である和梨を使ったジュース作り。この和梨ジュースを作る過程において、多くの住民が協力し合い、地元への誇りと愛着を形成し、震災により失われた地域のコミュニティを再生しています。

取組の様子

和梨ジュースを作る過程では、住民による試飲会も実施され、そこで出た意見を基に改良を重ねてきました。改良を重ねるごとに住民の愛着も増し、想いの詰まった和梨ジュースがつくられています。この和梨ジュースをたくさんの人に知ってもらおうとお披露目会も行われました。

実施者の声

「この取組は、震災を契機に地元を見つめ直していた時、地元の特産品である和梨の生産者と出会ったことがきっかけで始まりました。この特産品を活用したジュース作りは、震災前に存在した地域の誇りや自信を思い出させてくれるだけでなく、人と人との絆が再生され、やがて町を豊かにしてくれると思っています」

参加者の声

「震災から今まで、このように地域の事を考えて取り組むことは自分ではできなかった。こうして地元のモノやヒトのことを考え、取り組んでくれる人がいて本当にありがたい。この取組を通じで地元が元気になっていく姿を外部のたくさんの人に知ってもらえたらと思います」

取組団体

特定非営利活動法人ハッピーロードネット

代表者　西本 由美子さん

取組名称

地域を担うまちづくり人材の育成を促進する取組

取組の概要

福島を含めた全国の高校生、さらには海外の高校生が、被災地において現状と課題を学び、課題解決に向けて多くの仲間と挑戦する「ハイスクール世界サミット in 福島」が開催されました。この取組には、チェルノブイリ原発事故の被災地であるベラルーシでまちづくりを学び、現地の高校生との交流経験を持つ被災地出身の高校生も参加しました。

取組の様子

ハイスクール世界サミット in 福島には日本の高校生だけでなく、ベラルーシなど海外の高校生も参加しました。地元の声を学ぶ姿や、複数のグループに分かれて共通のテーマについて話し合い、協力しながら発表する姿に子どもたちの成長を感じ、高校生ならではのプランが披露された発表内容に微笑ましさとともに未来への期待を感じました。

今回の取組による様々な体験を通して、地域を越えた同世代の絆が深められていました。

実施者の声

「サミットに参加した高校生が、今後、地域の未来を考え行動する時、今回のような取組で自ら学び・みんなで考えた経験が貴重な財産になると思い実施しました。

ベラルーシの高校生とディスカッションし、英語で発表するグループもあり、地域の架け橋となるだけでなく、地域と世界の架け橋となれる人材が育っていく可能性を感じました。

被災地の未来を担える人材を育成し続けるためにも、これからもこのような取組を長く続けていきたいと思っています」